



田中 知美 / Tomomi Tanakai, 双頭 / *Double-headed*, 2019, 陶 / Ceramic

田中知美 個展
溶けあうかたち

2020年3月14日(土) - 3月28日(土)
オープニングレセプション: 3月14日(土) 4:30 - 6:00pm

現代美術 艸居

京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2

開廊時間: 10:00-6:00PM 定休日: 日・月



プレスリリース

この度、現代美術 艸居では、田中知美個展「溶けあうかたち」を開催致します。艸居では初めての個展となる本展では、新作の陶作品 11 点を展示いたします。

この機会に是非ご高覧いただけますと幸いです。

“田中の作品は、土の可塑性とそれから生まれる表情、そして自身の感覚との絡み合いによって生み出される。フォルムを構築する最小パーツが薄板一枚であるため、パーツはフォルムそのものを作り出すことはできず、それを集積させることで、初めて有機的なフォルムが立ち上がってくる。故に、田中の意識の高まりや不安が、そのままフォルムに直結している。”

(唐澤昌宏・東京国立近代美術館工芸課長、『陶説』、日本陶磁協会、2017年5月号 pp.63)

田中知美は愛知教育大大学院に在籍中、若手陶芸家の登竜門であった朝日陶芸展で奨励賞を受賞し、華々しく作家としてのキャリアをスタートさせました。この特徴的なフォルムと質感は、手びねりで形成した母体に薄く伸ばした大小様々な襞状のパーツを一枚一枚貼り付けるという繊細な工程を経て生み出されます。長時間土と向き合うこの制作方法に思い至ったきっかけは、板の上で押しつぶした土の表情が美しいと感じたことだったといえます。

襞の母体となる土台のかたち、焼成後の質感にも意識を向けながら田中の作品は作り出されています。この独自の技法を追求していく中で、膨らみねじれ震える、そんな言葉にならない心の動きを、また力強くて儂い生命そのもののかたちを表現したいという思いが生まれてきました。今展で展示される新作は、複数のかたちが組み合わせられる事でより面白いかたちが生まれるのでは、という作家の思考に基づく試みで制作されています。ひとつのものから別の何かが分裂して生まれたり、別々のものがくっついたりして新しいものになる、そういった生き物の活動をととても不思議で興味深く感じるのだといえます。

自身について、気持ちや考えを短時間で言葉にするのが苦手と評する田中ですが、時間をじっくりかけて土と接し作品を作る事で己自身を整理して表現することができると語ります。そんな作家の内在世界を、作品のかたちそのものに宿る生命力を感じていただければ幸いです。



プロフィール：

田中 知美（たなか ともみ）

1983年兵庫県生まれ。2008年愛知教育大学大学院教育学研究科芸術教育専攻修了。陶芸家の中島晴美氏に師事し、2006年大学院在籍中に朝日陶芸展で奨励賞を受賞。主な受賞歴には、2005年第39回女流陶芸展京都市長賞、2007年第28回長三賞入選、2008年第8回国際陶磁器展美濃入選（2014年陶芸部門銀賞）、2016年愛知県芸術文化選奨文化新人賞など。パブリックコレクションには茨城県陶芸美術館（笹間市、茨城県）、日本財団（東京）がある。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。

掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡くださいませ。

プレス担当：元林久美子

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2

motobayashi@gallery-sokyo.jp Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457